

青森銀行記念館

(旧第五十九銀行本店)

重要文化財

設計:堀江佐吉

竣工:明治37年(1904)

住所:青森県弘前市元長町26

交通:JR弘前駅より徒歩20分



第五十九銀行本店として、明治37年(1904)に建てられた。

設計者は堀江佐吉【ほりえさきち・弘化2年(1845)～明治40年(1907)】。堀江は津軽藩の城大工・堀江家の五代目として生まれた。明治維新後、建てられた洋風建築の多くは“お雇い外国人”建築家や外国人から技術指導を受けた日本人が手がけたものであるが、その中であって、独学で洋風建築技術を習得した数少ない“棟梁”の一人が堀江である。旧弘前市立図書館、日本キリスト教団弘前教会、そして、太宰治の生家(現:斜陽館)などを手がけたが、代表作とされるのが、この建物である。

県内のヒバとケヤキを使用した木造二階建てで、外観はルネサンス様式である。その一方、防火のため、土蔵造りの技法を取り入れて、内部の壁面に瓦を張って、その上を漆喰で塗りつぶす・窓を土戸(土と漆喰で固めた引戸)でふさぐことができるようにするなどの工夫が凝らされている。さらに頂上には展望台兼用のインド寺院風の装飾塔を配して、全体的な雰囲気は独特のものとしている。

昭和18年(1943)、第五十九・八戸・津軽・板柳・青森の五行が合併、青森銀行と改組した際に弘前支店となった。そして、昭和42年(1967)に弘前支店が新築されたのに伴い、この建物は青森銀行記念館となり、昭和47年(1972)には国の重要文化財に指定された。

この文書の著作権は株式会社富士通アドバンスソリューションズが保有します。許可なく複製、転用、販売などの二次利用することは禁じます。

雑誌書籍、広告など出版物への掲載にあたっては、お手数ですが、事前にご連絡願います。